



◎校長からのメッセージ 『 復興達成のためにも国際感覚ある教育を！ 』
志津川高等学校 校長 山内 松吾



6月6日(火)から9日(金)まで、**韓国を訪問する機会**をいただきました。主たる目的は、昨年、本校を訪れ、韓国の素晴らしい伝統芸能を披露してくださった**大眞(デジン)女子高等学校**との今後の交流のあり方などを話し合うことにありました。

大眞(デジン)女子高は生徒数1,500人ほど。1学年14クラス、職員室が5つもあるマンモス高校です。授業はもちろん、放課後に自習できるスペースが、各学年別に確保されていて、夜12時まで自学自習する生徒も多くいるというお話を伺いました。最近では、中国からもわざわざ同校の入学を希望し、卒業後は韓国の大学に入る人が増えているそうです。

校舎も、日本の短期大学並みの施設で、昼は生徒が全員学食で食事を済ませます(写真右)。授業風景は日本の高校とあまり変わりありませんが、外国語は、英語の他に、中国語と日本語を学ぶことができます。印象に残った授業は体育の授業です。中に浮かぶ大きな球体を使ったゲームを、生徒たち



【大眞女子高の学食の様子】

はみな楽しんで学習していました(写真左)。日本のアニメが韓国では大人気で、学校の至る所に生徒たちが描いた作品が見られます。トトロやグデタマまでありました。

それから、ソウル市内の地下鉄を利用して、感心したことがあります。それは、地下鉄の全てのホームにホームドアが設置されている、ということです。乗客がホームに転落すると



(ソウルの地下鉄ホーム)



【宙に浮かぶ大きな球体を使った体育の授業】
という、痛ましい事故は絶対発生しないようになっています。ホームでの転落事故がニュースになる日本は、見習うべきだと思いました。今回は、朝鮮半島が軍事的に緊張していることから、7月に予定されていた本校生徒の韓国訪問は中止となりましたが、若い人たちの国際交流は、世界中で今後益々盛んになることは間違いありません。

日本では決して味わうことのない**異国の実状を肌で感じて国際感覚を身に付けることが、被災地の復興だけでなく、これからの日本の発展に必ずや必要となります。**今後も可能な限り、**海外との交流を視野に入れた教育を続けていきたいと考えています。**

○インターハイ出場決定！○ 3年2組 三浦琢磨



6月3日（土）から5日（月）にかけて（競技によっては一部他日開催），県内各会場において**第65回宮城県総合体育大会**が開催されました。当初，空模様が心配されましたが，大会当日は好天に恵まれスポーツ日和となりました。きっとどの会場でも大きな声援が飛び交ったでしょう。

今回は，**陸上部が総合フィールドの部で宮城県2位の成績を収めて東北大会出場を果たし**，そして**三浦琢磨（3年）がハンマー投げ（54m98cm）で東北大会2位となり**，**インターハイ出場の切符を手にする**などの大きな活躍が見られました。今後の活躍がますます楽しみです。

【フィールドにて出番を待つ】

志津川高等学校学習支援センター

「志翔学舎（ししょうがくしゃ）」開校

○「志翔学舎」開所式

6月11日（金）志津川高校中講義室において，**志津川高校学習支援センター・「志翔学舎」**の開所式が行われました。式には，南三陸町長・佐藤仁様や同窓会長・小畑政敏様をはじめ，町教育委員会教育長・佐藤達朗様，志津川中学校校長・三浦馨様，歌津中学校校長・小松真様，そして開所を心待ちにしていた多くの生徒たちが出席しました。

○進路実現に向け，生徒一人ひとりの自律学習をサポート

「志翔学舎」は自習室または分からないところを質問する場であり，それぞれの進路実現に向けて志津川高校生なら誰でも利用できる学習施設です。**中講義室（平日・午後4時～午後7時まで）と旭朋会館（平日・午後7時～午後9時まで／休日・午前9時～午後5時まで）の2つの教室が会場**となります。

質問を受け付ける講師として，「特定非営利活動法人・キッズドア」の三人が常駐して対応します。



【開所式終了後，早速机に向かう】



【志翔学舎開所式・記念撮影】